

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

学校名	唐津市立第五中学校
-----	-----------

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	重点取り組み内容の評価項目である「学力の向上」、「心の教育」、「健康・体づくり」、「業務改善・教職員の働き方改革の推進」、「キャリア教育」、「特別活動の充実」について、それぞれ、職員は成果指標を設定し、意識をもって具体的取り組みをすることができた。結果として、多くの個別の取組内容は、職員、生徒、保護者のアンケート等からおおむね良い結果が得られた。しかしながら、数値目標にあと一歩届かなかった項目があったり、さらに高い成果指標を設定できそうな項目があったり、また、取組内容と関係の深いことで本校が十分ではないこともあるなど、今後の取り組みにおいてさらに積み重ねていくことが重要である。「学力の向上」においては、学習状況調査において対県比が低迷しており、今後も個別最適な学びやICTの利活用を含めて、指導方法の研究や改善を進めていく必要がある。「いじめの対応」について、本校では職員の研修や実践を重ねており、解決や早期発見の成果が徐々に表れているが、生徒の学校の取り組みに対する肯定的な回答は昨年度の約65%より上がっているもの約77%にとどまっている。同様に、教育相談の面でも肯定的な回答は昨年度の約62%から約85%に向上しているが、来年度さらに生徒の安心につながるよう研鑽を重ね実践していく必要がある。
---------------	---

2 学校教育目標	学校教育目標：「未来を創造し、夢と誇りを胸に、進化した続ける生徒の育成」 キーワード：「創造」「継続」「挑戦」 校訓：みなぎる力、輝く希望、あふるる光
----------	---

3 本年度の重点目標	I 知：確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 →①教師の授業力の向上 ②特別支援教育の充実 II 徳：豊かな人間性の育成と社会規範の醸成 →①開発的生徒指導の推進 ②キャリア教育の推進 ③生徒会活動の活性化 ④人権・同和教育の充実 ⑤道徳の授業を核とする道徳教育の充実 III 体：健康な心と体の育成 →①健康教育・安全教育の充実 ②教育相談等の校内支援体制の確立 IV 校務分担と協働による「働き方改革」の推進 →①業務の効率化を図り、生徒と関わる時間の増加促進 ②部活動ガイドラインに沿った部活動指導の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目

評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	○「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」、「他者と交流をすることで、より深まった自分の考えを表現することができるようになった」に対して、肯定的な回答をする生徒が、それぞれ75%以上。	・校内研修や学年・教科部会で、指導方法を共有しながら、授業の中で基礎知識を定着させる場面や自分の考えを表現する場面を設定する。	B	・1学期に行った生徒へのアンケートで、「授業に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒は51%、「教科の内容がわかる」と回答した生徒は45%であった。 ・各教科で、本校独自の基礎・基本の定義、単元ごとに見通しを持たせるための取組を確認している。指導方法を共有しながら基礎学力定着に向けた取組の実践を図っている。	A	・2学期に行った生徒へのアンケートで肯定的な回答をした生徒は、「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」で90.6%、「他者と交流をすることで、より深まった自分の考えを表現することができるようになった」で87.5%で、それぞれ目標値の75%を大きく上回った。 ・各教科で、本校独自の基礎・基本の定義を定め、単元ごとに見通しを持たせるための取組や毎時間のあての設、教科別の授業研究会を行い、改善点や指導方法を共有化したことで、生徒の意欲や基礎・基本の内容の定着が向上した。	・学力向上対策コーディネーター ・学力向上部長 ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○行事や道徳の授業における活動を通して、思いやりや社会性豊かな心を身に付けることができたと感じる生徒の割合が80%以上。	・学校行事(体育大会、文化発表会など)や学年行事(修学旅行、子育てサロン、職場体験学習、松葉かきボランティアなど)において、その取り組みの過程で、支え、承認し、称賛することで、より自発的な活動を促す。	B	・学校行事や総合的な学習における取組とつながりを持たせて教材を選定したことで、考えを深化させることができるようになったと回答した生徒の割合は70%を超えている。道徳的な価値について生徒の豊かな心を育むことに近づいていると考えられる。今後も引き続き実践を重ねていきたい。	A	・学校行事や地域の行事などに積極的に参加することができたという回答した生徒が75%を超えていることは、学校行事や体験活動に関連した資料を事前に選定し、道徳の時間に考えを深めさせ、活動させたことによるものだと考えられる。 ・毎月行われる生活アンケートを活用して、お互いのよかったところを学年で公表するなど生徒の自尊感情を高める活動を行うことができた。	・道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を図り、覚知時には組織的対応ができていると回答した教師の割合が90%以上。	・いじめの定義、いじめ防止・対応等についての研修及びアンケートを年3回以上行う。 ・覚知時には、対策委員会を立ち上げ、管理職や各学年職員、保護者と連携しながら解決に努める。	B	・1学期の生徒指導アンケート(職員向け)では、ほとんどの職員が組織的対応ができていると回答していた。しかし、文面での回答であったため数値化できなかったことは反省として残るため、最終評価の際は数値化を行う。 ・7月より生活アンケート(生徒向け)を毎月とることになり、11月までにすでに4回以上実施できている。また夏季休業中に職員向け、いじめ防止・対応についての研修を1回行うことができた。	A	・2学期の生徒指導アンケート(職員向け)では、94%の職員が組織的対応ができていると回答しており、目標を達成することができた。 ・継続して生活アンケート(生徒向け)を毎月実施しており、生徒の心の声を細やかに拾えるように努めている。また、アンケート結果は生徒指導部会で取り上げたり、Teamsで共有できるようにしたり、全職員への共通理解を進めるための仕組みをつくることができた。	・生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が80%以上。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が70%以上。	・生徒に出番と役割を与え、承認する、開発的な生徒指導を実践する。 ・教師自らが、夢を持ち、その実現に向けて努力する姿を見せる教育を実践する。	B	・各教室や全体の場面で開発的な生徒指導を行うよう呼びかけをして概ねほとんどの職員により実施されている。今後のアンケートの結果を見てさらに改善点を図っていきたい。 ・本校の職員は、それぞれが掲げる目標に向かって日々努力を続けており、その姿は自然に生徒に伝わっていると思われる。	A	・生徒会本部及び生活厚生部を中心に「校則」検討委員会を組織し、全校生徒を対象にアンケートを実施、「校則」の検討を行った。会議を重ねいくつかの改善点を検討し、職員や保護者の前で提案させることができた。「校則」の見直しに自分たちの意見や話し合いの成果が反映されることで生徒の自尊感情を高めることができた。今後はそれまでの成果を含めて本校の生活心得を発行する予定であり、彼らの成果をこれに記す予定である。	・教頭、主幹教諭
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	②生活習慣に関するアンケートを実施し、それぞれについて心掛けている生徒の割合が、早寝・早起き80%、朝ごはんを食べる80%、適度な運動80%以上。	・全校集会・学活を通して生徒へ呼び掛け、アンケートを実施し、結果を生徒にフィードバックすることで、生徒のタイムマネジメント力を育む環境の充実に努める。 ・各種通信、面談を通して保護者との連携をしながら取組を進める。	B	・通信や面談を通して、生徒の生活習慣について実態を共有し、より良い生活習慣に向けて話が行った。 ・3学期に全校集会を活用して講話を実施し、その後アンケートを実施した。その結果を生徒にフィードバックし、タイムマネジメント力を育む機会とした。	A	・2学期に行った生徒へのアンケートで「早寝早起きを心掛けている」と回答した生徒は71%、「朝食をとるよう心掛けている」と回答した生徒は92%、「適度な運動をするよう心掛けている」と回答した生徒は84%であり、「朝食をとるよう心掛けている」「適度な運動をするよう心掛けている」の項目は目標を達成した。 ・3学期は様々な行事等と重なり、集会等での講話が実施できなかったため、来年度は全校集会等で「早寝早起き」について取り上げたい。	・体育主任 ・保健主事
	○生徒の心を健康にする教育相談の推進	○教育相談等で「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行い、支援方法の協議をする。 ・職員が生徒の変化に気づきやすいように、定期的なアンケートを行う。 ・SCやSSWの活用、外部機関などの周知と連絡調整を行う。 ・教育相談に関する研修や資料等の発信を行う。	B	・気になる生徒について、毎月各学年のカンファレンスや不登校対策委員会を行い、支援方法の協議を行うことができた。また、SC来校の際には、生徒、保護者への面談やカンファレンスでの助言等、生徒支援につなげている。また、SSWのサポートが必要な生徒の調整を行っている。 ・2回目の教育相談では、生徒が担任以外とも相談できる機会を設定できた。	A	・気になる生徒について、毎月各学年のカンファレンスや不登校対策委員会を行い、関係職員での情報共有や支援方法の協議を行うことができた。 ・SC来校時には、生徒・保護者面談の他にも検査等を実施したり、SSWやSSFへの相談をして家庭訪問の依頼をしたりして、外部機関と連携を図ることができた。 ・教育相談等で、「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が82%と目標を達成することができた。	・教育相談担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各職員に、昨年度よりも就業時間を削減することを呼び掛ける。 ・業務効率化の事例紹介などによる定時退勤日の推奨および月に1度、定時退勤の完全実施日を設ける。 ・会議のペーパーレス化を進めることで、資料の印刷配布などの負担を軽減する。	B	・各職員に対する就業時間削減の呼び掛けは行っているが、月に1度の定時退勤完全実施日は設定できなかった月もある。今後確実に設定していきたい。 ・部活動ガイドラインに沿った休業日の設定は確実にできている。 ・会議のペーパーレス化は確実に実施されている。ただし、紙媒体による配布が必要なものもあり、今後、データか紙媒体かの選択やさらに紙媒体を減らすための工夫など検討の余地はある。	B	・各職員への就業時間削減の呼び掛けは引き続き行うことができた。後半は月に1度の定時退勤日の完全実施日の設定はできた。アンケートでは就業時間の削減に努めていると回答した職員は68.0%で、努めているができていない部分も結果としてはあまり高くなかった。 ・すべての部活でガイドラインに沿った休業日を設定することができ、生徒の休養を取ることができた。 ・会議のペーパーレス化は確実に実施されている。データのPDF化も職員の理解を得て進んできた。しかし、今後は紙媒体さらに減らすための職員のデータ管理のメソッドを高めるなど、研修や検討を重ねていく必要がある。	・教頭、主幹教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	
○キャリア教育	◎キャリア・パスポートによる自己成長のための見通しと振り返りにより、生徒の志を高める	○自分の将来について肯定的な考えを持つことができたという回答した生徒の割合が70%以上。(4段階評価による数値評価)	・キャリアパスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の個性や長所に気付かせる。	B	・各学年、行事などの前後にキャリアパスポートで振り返りを行った。記述に対する助言・アドバイス等が今後の課題となる。	A	・キャリアパスポートの記入とキャリア教育アンケートを、定期的に回答させることができた。また、生徒に記入させる際、担当が必要に応じて助言をし記入させることができた。 ・各学年の総合的な学習の時間では、高校調べや職場体験など進路に関する学習を計画的に行った。 ・学年によって、キャリアパスポートの取り組み具合が違ったので、学年を越えて教員同士がよく話し合う必要がある。	・総合的な学習(キャリア教育)担当
○特別活動の充実	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を生徒を中心に、あいさつの意識づけや、授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・毎月0、4、8のつく日の朝にオハヨ(084)運動として、生徒会が生徒玄関前であいさつ運動を行う。 ・昼休み終了の予鈴の2分前に生徒会から放送で呼び掛けを行う。 ・帰りの会の放送で生徒会から立腰の呼び掛けを行う。 ・学校行事を生徒主体で行うように、生徒会に企画、運営させる。	B	・生徒会の本部役員を中心にあいさつ運動(オハヨ運動)を行っており、少しずつあいさつをする生徒が増えた。まだまだ、会釈のみの生徒もいるので、引き続き運動を行い、気持ちのよいあいさつができる学校を目指していく。また、あいさつ運動の様子を帰りの放送でも評価し、生徒全体にあいさつの意識づけを行っている。 ・昼休みの放送により5時間目の授業に遅れる生徒がほとんどいないので、今後も継続して取り組んでいく。 ・ほとんどの学校行事を生徒会中心の生徒主体で行うことができ、生徒が意欲をもって活動に取り組んでいる。	A	・あいさつを活性化させる取り組みとして、084運動以外にも評議員が中心となってあいさつ強化週間を行ったので、あいさつをする意識はついてきている。その結果、生徒のアンケート「自分から進んであいさつをすることができましたか」の項目で「そう思う・ややそう思う」と回答した83%以上になったことは取り組みの結果であると考えられる。しかし、保護者のアンケート「お子さんは、自分から進んであいさつをすることができていますか」の項目で、72%となっている。保護者と生徒の間で差があるので、今後もあいさつに対する活動を継続していき、あいさつができる学校を目指していく。 ・登校時間5分前と昼休み終了の予鈴2分前に生徒会から放送を入れることで、授業に遅刻する生徒が減っているが、朝の遅刻者がなかなか減らないので生徒会だけでなく、学校全体で呼び掛けて生活習慣の改善を図る必要がある。	・生徒会担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	重点取り組み内容の評価項目である「学力の向上」、「心の教育」、「健康・体づくり」、「業務改善・教職員の働き方改革の推進」、「キャリア教育」、「特別活動の充実」について、それぞれ、職員は成果指標を設定し、意識をもって具体的取り組みをすることができた。結果として、多くの個別の取組内容は、職員、生徒、保護者のアンケート等からおおむね良い結果が得られた。しかしながら、数値目標にあと一歩届かなかった項目があったり、さらに高い成果指標を設定できそうな項目があったり、また、取組内容と関係の深いことで本校が十分ではないこともあるなど、今後の取り組みにおいてさらに積み重ねていくことが重要である。「学力の向上」においては、学習状況調査において対県比が低迷しており、今後も個別最適な学びやICTの利活用を含めて、指導方法の研究や改善を進めていく必要がある。「いじめの対応」について、本校では職員の研修や実践を重ねており、解決や早期発見の成果が徐々に表れているが、生徒の学校の取り組みに対する肯定的な回答は昨年度と同じ約77%にとどまっている。同様に、教育相談の面でも肯定的な回答は昨年度より微減の約82.2%となっている。来年度さらに生徒の安心につながるよう研鑽を重ね実践していく必要がある。
----------------	---